

ご存知ですか?

# 身近にある「人権」に関わること

言葉

普段、何気なく使っている言葉はありませんか？ 人権侵害や視聴者からのクレームなどの理由で、テレビ・ラジオ等のマスメディアによって自主規制されている言葉があります。放送では（ ）内の言葉のように言表現されています。

### \*放送コード(放送業者の自主規制)の一例\*

裏日本(日本海側) 表日本(太平洋側) 父兄(保護者) 小使い(用務員・校務員)  
子供(子ども) 百姓(農民) 魚屋(鮮魚商) 床屋(理容師・理容業) パーマ屋(美容院)  
八百屋(青果商) 郵便屋(郵便配達員) 尻拭い(後始末) 日本のチベット(過疎地域・高山地帯)  
肌色(パールオレンジ・うすだいだい) ブラインドタッチ(タッチタイピング) 老婆(老婦人)



歌

歌詞の中に放送コードに触れる言葉があるなどの理由で、放送業者が自主規制し、放送されなかった楽曲がたくさんあります。

例えば、“赤い鳥”がカバーした「竹田の子守唄」は元唄が被差別部落採譜である、美輪明宏さんの「ヨイトマケの歌」は歌詞の中に放送コードに触れる箇所(「土方」「ヨイトマケ」)があるということで、長い間 民放のテレビ・ラジオから姿を消していました。

本

人権課題を身近に感じられる内容の書籍を紹介します。

- 有川 浩 『図書館危機』(言葉狩り)
- 『図書館内乱』(聴覚障がい者へのセクシャルハラスメント)
- 『レインツリーの国』(聴覚障がい者の生活)
- 増山 実 『勇者たちへの伝言 いつの日か来た道』(北朝鮮拉致問題)
- 万城目 学 『プリンセス・トヨトミ』(性同一性障がいの男の子が登場)
- 水上 勉 『はなれ警女おりん』(視覚障がい者が登場する作品)

## 弱者の立場を知る

# 高齢者疑似体験教室

人権教育小集団学習グループ「むすびめ」さんの活動取材させていただきました。



今や日本の総人口に占める 65 歳以上人口の割合は 26.0%です。

「老いとは?」「超高齢化社会とは?」  
健康な方や若い世代には、加齢による身体的な変化や気持ちを、ぼんやりと想像は出来ても、実際に理解した上でサポートすることや、自分自身の予防といった行動に移すことは容易ではありません。

そこで、高齢者の不自由さを知るために、ボランティアグループ“グループもりもり”の皆さんを講師に招き、親子で「高齢者疑似体験」を行いました。

まず最初に、代表の森さんから、「戦争を越え、戦後の苦しい時代を支え続けた方々が今、高齢者となっています。衣食住がままならない社会を立て直すために勤勉に働いた日本人。なぜここまで頑張り続けたのか。そこには『次の世代に自分達の経験した苦しみは味わわせたくない!』という想いに溢れていたと思います。」とお話がありました。豊かで安全な暮らし...そのバトンを手渡してくれた方々のこれからを理解したい、そう感じた一言でした。

そしていよいよ筋力や視力、聴力の低下、関節の曲がりにくさ、手先の動かしにくさ等を体験するための装具を着用。コインケースから目的の小銭が出せない、探しているページがなかなか見つからないなど、思うようにならない焦燥感や、身体を動かすことにつきまとう不安を実感しました。

豊かさの中、スピードばかりを求められ、慌ただしく移りゆく現代に生きる私達に、歳を重ねるということはどういうことなのか、これからの社会に必要な行動はどのような選択なのかを、考えるきっかけをいただきました。

高齢者疑似体験教室についてのお問い合わせは  
尼崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター(06-6481-7733)まで。

## かかわらなければ路傍の人 ハンセン病問題が問いかけるもの

1月19日(木)中央公民館において約100名の参加のもと、人権・同和教育実践研究大会が開催されました。全体会では、芦屋市人権教育推進協議会副会長 川崎正明さんにご講演いただきました。川崎さんは牧師で、長年詩人の塔和子さんとかかわり、支えてこられた方です。

塔和子さんは13歳でハンセン病にかかり、高松市の大島青松園で2013年にその83年の生涯を閉じましたが、1999年に高見順賞を受賞した優れた詩人でした。今は本名でご両親のお墓に分骨されています。川崎さんはその塔さんの詩「胸の泉に」の中の“かかわらなければ路傍の人”という詩句に強く惹かれ、青松園に足繁く通うようになりました。国による強制隔離政策のために本名を奪われ、子どもをもつことすら奪われた多くの人々。川崎さんはそれらの人々の胸の内の苦悩や生きる力をうたった塔さんの詩が世に出るお手伝いをしてこられたのです。

川崎さんは「命の尊厳とは何か」と問いかけておられます。私たちはその問を受け、ハンセン病回復者だけでなく、中国残留日本人、在日韓国・朝鮮人への差別・偏見にも目を注ぎ、心のアンテナを高く掲げ、心の鏡を絶えず磨いて、正しく知り、深く共感して、だれもが安心して暮らせる社会の実現を目指していきたいものです。  
<社会教育部>



講演の内容は年度末発行の「尼同教この1年」に掲載しています